地 域 統計

千葉県大多喜町

へと考え つことを語った。 講演ではまず、林野庁

氏が「木材利用の促進と 整班課長補佐の吉本昌朗 林政部木材利用課企画調

> ついてスピーチした。 の取組みと今後の展望に 出し、木質バイオマス燃 喜町町長の飯島勝美氏も 料として使い切る」ため 車座トークには、大多

止まで、様々な意義をも

十葉県大多喜町で地域 喜町の廃校になった小学 と」をテーマに、林野庁 ムコース)が務めてい くを拠点に地域活性

11月8日 (日)、低炭素 co・jp(エフコ)が

社会づくりシンポジウム 「地域の人々と考える森

ンポジウムもその一環

エフコの代表理事は本

を行っており、今回のシ ーを活かした様々な活動

林・竹林の活かし方」を

な森林・竹林を、地域の

学の佐藤建吉准教授(エ

人々が自ら活用するこ 学研究科都市環境システ

だ。「千葉県中部の豊富(紙でも連載をもつ千葉大

のは、林野庁前長官の沼 た。続いて挨拶に立った

田正俊氏。沼田氏は、森

いとの同庁の見解を示し

林ビジネスが地域の雇用た。また、林産物につい

ルギーの河合純男代表

┈てのTPP合意にも触

林業家を代表して登壇

かにも具体的な事例が

ことなどを力説した。ほ

域活性化には住民の主 締役は、再エネによる

的な参加が不可欠である

進める一般社団法人ef に、地域の自然エネルギ 演、車座トークなどが催

は「先進的田舎」をキー ワードに地方創生の新し いヴィジョンを提示し

してレクチャー。吉本氏

林業の成長産業化」と題

った。この中で、里山敕

発言する活発なものとな

家を交え、およそ30人が 参加。地元の人々に専門

備などを行うNPO法

された。

沽性化に向けた取組みを 校(老川小学校)を拠点 担当者や事業者による講 る。主催者挨拶で佐藤氏

まちづくりを推進」した し、木材利用を軸とした る総合的な施策を展開 は、「川上から川下に至 みなかみ町から参加 用について紹介。群馬 た、りゅういき自然エ 竹もりの里の鹿島與一氏 は、竹炭・竹粉の農業

「未利用間伐材を全て搬 代表取締役。近藤氏は、 ステーションの近藤亮介 したのは、Bioフォレ

となった。

ぞれの関心に応えるもの 数発表され、参加者それ